

# 平成 25 年度継続事業に関する継続評価書

研究機関 : 株式会社国際電気通信基礎技術研究所、  
日本電信電話株式会社、株式会社島津製作所、  
積水ハウス株式会社、慶應義塾大学

研究開発課題 : 脳の仕組みを活かしたイノベーション創成型研究開発(高精度脳  
情報センシング技術・脳情報伝送技術、実時間脳情報抽出・解読技  
術及び 脳情報解読に基づく生活支援機器制御技術)

研究開発期間 : 平成 23 ～ 26 年度

代表研究責任者 : 石井 信

■ 総合評価 : 適

(評価点 18 点 / 25 点中)

(総論)

計画通りに進捗しており、今後さらなる進歩的な成果が生まれることを期待している。

(コメント)

- 目の前の問題解決をしているだけでなく、広い視野でこのプロジェクトを考えていることがよくうかがえる。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(SABCD の5段階評価) : 評価B

評価点 : 3点

(総論)

実装は順調に進んでいる。

(コメント)

- 先端の技術開発あるいは基礎研究につながるポジティブなフィードバックができるような取組及び学術発表を期待。
- 一部に進展は見られるが、評価対象となりうる具体的なデータに関する資料が少ない。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(SABCD の5段階評価) : 評価B

評価点 : 3点

(総論)

概ね妥当。

(コメント)

- 予算計画書等に則って適切に執行されている。

### (3) 研究開発実施計画

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 4点

#### (総論)

工程管理に優れ、実装は順調に進んでいる。

#### (コメント)

- 現時点では「年度末までに達成する見込み」との記述も複数みとめられるが、概ね順調といえる。
- 現状の問題点はよく把握されている。

### (4) 予算計画

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 4点

#### (総論)

全体の研究実施計画に則って有効な予算計画が組まれている。

#### (コメント)

- 倫理調査関係の費用等でさらなる効率化を図れないか。

### (5) 実施体制

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 4点

#### (総論)

各方面からバランスよく参加した体制が組まれている。

#### (コメント)

- スケジュール等の管理体制も良好。
- 新たに神経科学者をメンバーに加え、より基礎的なテーマを与えている。
- 目標達成への注力にも期待。